



元禄坊主踊り 新富物語

新富町の伝統芸能の1つ「元禄坊主踊り」。子どもの頃、坊主から全力で逃げた思い出がある方もいるでしょう。現在、この踊りを引き継いでいる「元禄坊主踊り保存会」は、今年で結成50周年を迎えました。そこで、改めて元禄坊主踊りの魅力と、50年のあゆみを振り返ってみようと思います。

元禄坊主踊りのあゆみ

令和元年	平成18年	平成12年	平成元年	昭和53年	昭和52年	昭和46年	昭和44年	昭和8年	明治中期
羽田空港で公演	第47回九州地区民俗芸能大会鹿児島公演	元禄坊主踊り保存会結成30周年記念大会	UMKテレビ開局20周年記念番組出演	第27回全国青年大会「郷土芸能の部」優秀賞受賞	第19回九州地区民俗芸能大会沖縄公演	元禄坊主踊り保存会結成	第18回全国青年大会「郷土芸能の部」優秀賞受賞	宮之首地区の有志が、鬼付女地区より指導を受けて踊りを復活、周辺に広まる	江戸時代より踊られていたが、この頃途絶



平成3年以降毎年、のぞみ保育園で「チビッコ元禄坊主踊り」を踊っています。



第19回九州地区民俗芸能大会沖縄公演など、県外で披露することもありました。



一度絶えた踊りを復活させた昭和8年の写真。この頃は、嫁女も男性が踊っていました。



会長 川上増雄さん

元禄坊主踊り保存会
事務局
☎090-7461-0698
(担当：東)

元禄坊主踊り保存会には現在、29人が所属しています。旧暦8月15日（十五夜）は、町内で一般公開をしています。かつては町内10か所以上を訪ねていたのが、夜遅くまで踊りっぱなしでした。

元禄坊主踊りはもともと宮之首、奥、矢床、平伊倉の4地区主体で行われていた踊りですが、現在、町の無形民俗文化財にも指定されており、『新富町の伝統芸能』として後世に残していきたいと考えています。

最近では、町内のイベントで呼ばれることも徐々になくなってきてしまい、後継者も少なくなっています。この踊りを受け継いでいる以上、きちんと保存していかなきゃならないと思っていますが、踊る機会も人もない、という実情があります。

まだまだこの踊りを盛り上げていきたいと考えています。どなたでも踊ることができまので、ぜひ興味ある方は保存会までご連絡ください。

Q. 元禄坊主踊りってどんな踊り？

宮之首、奥、平伊倉、矢床の4地区に伝わる郷土芸能で、五穀豊穡を祈って毎年旧暦8月15日に、水沼神社や巖島神社に奉納されます。奴（やっこ）と嫁女（よめじょ）、そして2人の中を邪魔する坊主を3人1組として踊るのが特徴です。町指定無形民俗文化財に指定されています。



奴と嫁女、仲良く和やかに踊ります♪

奴、嫁女、坊主はそれぞれ踊りの振り付けが違います。これは全国的にとっても珍しいんです！



2人に嫉妬した坊主が乱入、だんだん激しい動きに！

奴は刀、嫁女は薙刀、坊主は木刀を持って踊ります。踊りは全部で12番まであります。



坊主が見物人をかっさう！

坊主にさらわれた人には、福が訪れるのとか。一番の山場ですが子どもたちは大号泣。



「ほめ言葉」で厳かな雰囲気…

踊りの途中で見物人が踊り手を讃える「ほめ言葉」を述べ、「お礼言葉」を返します。